

在ボストン日本国総領事館主催
ニューイングランド大学生
第六回日本語コンテスト



The Sixth Annual
Japanese Language Contest for
New England College Students

Organized by
The Consulate General of Japan in Boston

2016. 4. 9

ニューイングランド大学生日本語コンテストも今年で六回目を迎えます。当コンテストは、エッセイ部門とスピーチ部門の二部門からなり、ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象としています。日本語学習者の皆様に日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

今回、エッセイ部門は四十五作品、スピーチ部門には二十五作品の参加を得ました。エッセイ部門では、「私の日本」をテーマにしたところ、お節料理、白黒映画や日本に行った思い出、日本に興味を持ったきっかけなど、自らの経験等に基づいた様々な視点から述べられた甲乙つけがたい作品が集まりました。どの作品からも、日本への思いが強く感じられました。スピーチ部門では、日本語についてだけでなく、太宰治、ちびまる子ちゃん、プロューチャーバーなど、様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、スピーチが楽しみでなりません。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十八年四月

在ボストン日本国総領事

姫野 勉

第6回日本語コンテストプログラム

平成28年4月9日(土) 1時より

1. 開会の辞

2. 挨拶 在ボストン日本国総領事館総領事 姫野 勉

3. 審査員紹介

4. スピーチ 中級の部

- | | | |
|----------------------|-------------------------|----------------------------------|
| (1) Amal Lajami | Northeastern University | ちびまる子ちゃんの魅力 |
| (2) Xiangyu Zhang | Mount Holyoke College | 癒しの教室から見る東アジア |
| (3) Yiwei Ellen Wang | Boston College | 「日本の小説」が私に教えてくれること |
| (4) Yeojin Kim | Mount Holyoke College | <朝鮮語>に悵然後、<韓国>に
勧告!?:言葉選びの難しさ |
| (5) Rita Ding | Brown University | 一番大切な贈り物 |
| (6) TBA | | |

5. スピーチ 上級の部

- | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------|
| (1) Xiou Wang | Brandeis University | 「美しい風景」が国を「造る」 |
| (2) Amy Hoang | Boston University | 閉ざされた日本の音楽 |
| (3) David M. Anderson | Middlebury College | 日本語の実力にはからくりがある |
| (4) Sungik Yang | Harvard University | 暗いところで会った明るい日本語 |
| (5) Linda Shuying Xu | Mount Holyoke College | 憧れの職業は、プロユーザーバー |
| (6) TBA | | |

6. エッセイ部門入賞者への賞状・副賞授与

7. スピーチ部門審査講評および結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 薄井 次郎

8. 入賞者への賞状・副賞授与

9. レセプション

審査員 エッセイ部門

作田 貴志

セイヤー 桂子

園田 耕司

森田 喜代子

薄井 次郎

安仁屋 賢

審査員 スピーチ部門

井熊 康之

グラハム 智子

作田 貴志

杉本 康士

薄井 次郎

若林 太一

高安 啓子 (予選)

福山 亜希 (予選)

ホームマン 道子 (予選)

松村 さとみ (予選)

出場者の大学の日本語教師 (自校学生以外を審査)

講談社USA COO

ボストン日本協会理事

ハーバード大学日米プログラムアソシエイツ (朝日新聞記者)

タフツ大学日本学科日本語講師

在ボストン日本国総領事館首席領事

在ボストン日本国総領事館領事

昭和ボストン日本語プログラム担当

ノーブル・アンド・グリーンノー・スクール日本語教師

講談社USA COO

ハーバード大学日米プログラムアソシエイツ (産経新聞記者)

在ボストン日本国総領事館首席領事

ボストン日本協会常任理事

ボストン日本語学校教師

ハーバード大学日米プログラムアソシエイツ (朝日新聞記者)

ボストンラテンアカデミー日本語教師

ハーバード大学元日本語上級講師

協力頂いた企業・団体

講談社USA、松栄堂、

ボストン・レッドソックス

(全五十音順)

エッセイ部門入賞者

Award Winners

初級レベル **Beginner Division**

一位 **1st Place**

Xueying Xu Mount Holyoke College

二位 **2nd Place**

Jiadong (Grace) Li Boston College

三位 **3rd Place**

Soo Jin Choi Boston College

中級レベル **Intermediate Division**

一位 **1st Place**

Tossapol Pholcharee Bowdoin College

二位 **2nd Place**

Weijia “Vicky” Shen Boston College

三位 **3rd Place**

Claudia Knox Bowdoin College

上級レベル **Advanced Division**

一位 **1st Place**

Melissa Miura Bowdoin College

二位 **2nd Place**

Hui Cao Bowdoin College

三位 **3rd Place**

Ji Hye Kang Boston College

初級レベル 一位

目で食べる日本の春の味

シユー シュエイン

は時々「京都の菓子職人さんだったら、このお菓子をどのように表現するのか」と想像します。それは、毎日理系のクラスで数字を追いかけている私が、一番リラックスできる瞬間でもあります。

春。日本では、桜ですね。色々な桜のお菓子もあって、人々は「春の味」を楽しんでいるのでしょう。

私は日本に行ったことも、桜の和菓子を食べたことありません。でも、よく和菓子の写真を見て、その味を想像しています。まさに、「目で食べている」のです。

私が一番食べてみたいのは桜餅です。いつも「これはどんな味なんだろう」と思います。餡は甘くて、葉はちよつとしょっぱいですか。桜の葉をお餅の餡と一緒に口に入れた瞬間、どんな味がするのでしょうか。私の故郷は中国の蘇州です。蘇州人は甘いものが好きで、「梅花糕」という伝統菓子が有名です。これも花の名前にちなんだ美味しいお菓子ですが、花のイメージではないので、目で味わうことはできません。私

初級レベル 二位

私の好きな日本のもの

ジャドゥン グレース リー

私の好きな日本のものは赤い箱のせっけんです。

こどもの時、毎晩、母はミルクを私の部屋にもって来ました。母はやさしい人です。このミルクで、私はよくねました。だから、ミルクの香りが特別です。

高校の時、私は北京に一人で住んでいました。私の父と母はオーストラリアではたらいっていましたから。私の高校の生活は忙しくて、そしてさびしかったです。たくさん宿題がありました。ひまな時、私は父と母を思いました。父と母も忙しかったから、あまり電話をしませんでした。

ある日、私はデパートで買いものをしました。そして、デパートで赤い箱のせっけんを見つけました。それは、とてもきれいな箱でした。私はせっけんの箱を近くでよく見ました。赤い箱のせっけんはミルクの香

りがしました。その香りが大好きでしたから、そのせっけんを買いました。そのミルクの香りは、母の香りでした。母は私の隣にいなかったけど、このせっけんが私の母でした。

初級レベル 三位

はんてん

スージ チョイ

私は日本のはんてんが好きです。東京に住んでいる兄から去年もらいました。はんてんが好きな理由は二つです。

一つは、はんてんの上着の機能がいいです。とても温かくて、フワフワです。ルースフィットだからどんなふくの上にも着られます。それは、太っている寒いきせつに便利です。肌ざわりと温かいことと、よくフィットするから寒い天気の日にかの中を着るのにいいです。

次は文化です。メディアでもはんてんをよく見ますが、それは今もみんながはんてんを着ているからです。子供の時から伝統が生活の一つになって、守っているのがわかります。伝統を大切に考えることと、それを守ることは素晴らしいです。それははんてんが、ただ

の上着じゃなくて、素晴らしい意味を持っていると思います。

外国人は、はんてんから色んなことがわかります。だから、はんてんは面白くて、特別な物だと考えています。はんてんの機能とその文化から、私ははんてんが好きです。

中級レベル 一位

刀

トツサポン ポンチャリ

刀は私にとって初めての日本だった。初めて日本の刀を見たのは『キル・ビル』という映画だった。私はタイ人で、子供の時はまだ日本の文化を知らなかったが、「なんてすごい剣なんだ。それにすごくきれいだぞ」と思った。映画の中で主人公は、細い刀を操りながら、すごいアクションで相手を倒していた。もちろんこの映画はフィクションだが、私に強い印象を与えた。剣が好きで、他の色々な剣は見たことがあったが、刀はそれまで見た剣とは全然違っていた。まず、軽そうで、強い。そして、形と刃紋がとてもユニークで、本当にきれいだと思った。

それから、私は刀に強い興味を持つようになって、色々調べてみた。あるビデオでは、刀で金属の鎧と弾丸を切っているのを見た。強そうだとは思っていたが、私はその強さに驚いてしまった。また、刀を作るのは難しく、時間もたくさんかかるといふことも分かった。刀は強いが、同時にとても美しい。私はこのことにびびくりしてしまった。

刀は強い武器だ。だが、それだけではなく、芸術でもあるのだと思った。そのような美しい刀を作れるので、刀鍛冶は芸術家だと思った。

そして、侍についても興味が出てきて、色々調べて、小説も何冊か読んだ。それによると、侍は、強くなるために厳しい武術の練習をしなければならなかった。しかし、同時に、侍はお寺で瞑想を学んだり、茶道を学んだりしていたことが分かった。侍は強い戦士だったが、生活の中に平和があった。

私は刀と侍は似ていると思った。刀は強力な剣だが、美しさを持っている。侍も強い戦士だが、心に平和を持っている。強さと美しさ、強さと平和は、全然関係がなさそうだ。だが、日本の文化の中では一つの物の中にある。私はこれに感銘を受けて、刀と侍だけではなく、日本の文化についても、もっと勉強がしなくなった。今、大学で日本語と禅などの日本文化を勉強しているが、これからもうっと勉強を続けたいと思う。

中級レベル 二位

謙虚な文化

ビッキー シェン

二年前、私は日本について何も知らなかった。この時、私はぜんぜん理解できなかった。どうして私の友達が日本が好きなのかを。アメリカの大学でアジアの歴史を勉強し始め、日本と中国のそれぞれの不平等条約についても習った。私は中国の出身だから、いつも自分でどうして中国はできなかったのに日本は近代化ができたのが疑問だった。

日本の歴史を勉強する前は、私は「謙虚」の意味があまりわからなかった。四年間アメリカに住んでいたのも、謙虚は好かない言葉だと思っていた。謙虚すぎる人は、自分の能力に自信がない人だと思っていた。しかし、日本の歴史の学習が私に謙虚の新しい意味を教えてくれた。明治維新期の岩倉使節団は外国留学で西洋諸国を視察し、西洋の優れた点を素直に日本に伝えた。謙虚な態度があったので、自分たちの弱さを認め、それを直せた。それは日本の謙虚さの代表だと思った。

初めて日本の旅行中にも、この謙虚な文化に触れた。大阪で二人の日本人医学生に会った。彼らと太平洋戦争について話した。彼らは私の日本の歴史に対する見解を聞いてくれて、時々質問もした。彼らは日本人だから、もちろんもつと日本の歴史と文化を知っていた。でも、いつも謙虚に私の歴史のクラスで習ったことを聞いてくれた。そして、日本は小さい国なので、いつもその悪い点を見つめ、他の国から習いたいと言っていた。この言葉に、私は自分の疑問の答えを見つけた。

また、ある日、バスを待っていた時、中国人観光客が並んでいないのに気付いた。日本のホストファミリーのお母さんはそれは文化の違いかもしれないと言っていたが、私はとても恥ずかしかった。私はその観光客には謙虚さがなく、中国の文化を肯定し、そのままそれに従っていたので、自分の悪い点がわからなかったのだと思う。だから、みんなが謙虚さを大切にすれば、自分の欠点を見つめることで、成長することができるんだと思う。

中級レベル 三位

日本の風景と私の歌

クロディア ノックス

高校三年の時、二か月ぐらい札幌でホームステイをしていたが、毎日、走るのが好きだった。走りながら、どんどん変わる景色を楽しんでいた。

ある日、コンビニの角を曲がると、道の隣に、私より背が高い草が生えていた。そして、その道をまっすぐ行った所に森があった。そこには古くて大きい建物がたっていた。車の音が聞こえなくなると、蟬の声がとても大きかったが、静かだった。それはにぎやかな札幌の中に隠れている秘密の場所だった。

また、ある日、駅の近くの商店街の中を走っていたら、周りの店が林に変わって、急な上り道になった。私は疲れていたが、一生懸命走り続けた。丘の上には、誰もいない古い製糸工場がたっていた。そこから見える札幌の町は新しくてにぎやかな感じだったが、丘の上には札幌の歴史と森の風景が残っていた。

日本からニューヨークに帰った後、走るのが大好きな私は、もちろん走った。セントラルパークを走りながら、前を横切ってくる小学生を待ったり、散歩しているカップルの後ろで走らなければならなかった。どうしても私の頭が静かにならなかった。色々な人に気をつけなければならなかった。池の隣の道を走りながら、木の上にいる鳥が見えた。鳥は鳴いていなかったのに、静かではなかった。タクシーの音が聞こえた。日本で走った時とずいぶん違うなと思った。木や動物たちの中にいるのに、いつも町の音が聞こえて、高い建物の陰に思うた。

その時、日本の風景が恋しくなった。日本で走っている時は、自分だけの時間だった。他の人の後ろで待ったり、車の音を聞かなくてもよかった。色々変わる景色を見て、自然の音を聞いているうちに、自分の悩みが小さく見えてきた。何も考えなくて走れるので、私の体の音がどんどん大きくなった。聞こえるのが私の足音や息だけになって、それが自分の音楽になった。また日本に帰って、自分だけの歌を聞きながら、日本の景色の中を走りたい。

上級レベル 一位

炊飯器

三浦 メリサ

私はハワイ生まれのハワイ育ちで、子供の時からいつもご飯を食べていた。日系人が多いためか、ハワイ中の人はよくご飯を食べる。だから、ご飯と炊飯器は私の生活にいつもある物だった。

小さい頃から、親戚の集まりには、それぞれが料理を持ち寄ることになっていた。テーブルの上に色々な料理が並び、みんな好きな料理を好きなだけ、自由に取って食べる。でも、誰もが必ず食べる物、それがご飯だった。ご飯だけは、皆同じ炊飯器から取って食べる。だから、いつも炊飯器は全ての料理の真ん中にあった。これは私にとって当たり前の事であり、絶対に変わらない事だった。

ところが、大学に入学して食堂に行ってみると、炊飯器がなかった。時々ご飯が出たが、日本のご飯でなくがっかりした。私は子供の頃から、世界中の人は皆炊飯器でご飯を炊いて食べていると信じていたが、それは間違いだった。炊飯器のこと、美味しいご飯のことを、誰かと話しかつ

た。だが、私の大学には日系人はあまりいない。大切な物は、なくなって初めてその大切さに気づく。私は寂しくなった。

そんな時に、「同じ釜の飯を食う」という言葉に出会った。この言葉は、日系人の私にとって、なぜ、炊飯器がそれほど大切なのかに気付かせてくれた。私の祖先は日本からハワイに来て、日系人の家族を育てたが、日本の文化をずっと大切にしていた。その中心にあったのが、お釜だったと思う。祖先も、一つのお釜で炊いたご飯を家族で分けてから、家族皆の顔を見、そして「頂きます」と言って一緒に食べたのだろう。これは、食べ物とご飯に感謝することだけでなく、食事の度に、家族の絆を確認することだったのではないだろうか。おかげで、今も私たちは、家族の絆は強いし、日本からの遺産を絶対に忘れない。お釜はもう使われていないが、炊飯器は、今も、絆の強い家族とコミュニティを作っている。炊飯器が伝える大切な日本。それが私の好きな日本。

上級レベル 二二

私の好きな日本

ハイジ カオ

子供の時から、いつも綺麗な日本のイメージを持っていく。それは、朝焼けの富士だ。青い山肌と、頂上の白くて柔らかそうな雪。薄紅の空に、丸く赤い太陽と立つ富士だ。国でも、よく富士山が描かれた絵や観光パンフレットを見ていた。日本へ行く機会はなかったが、日本は富士山だと思っていた。大学入学後、日本美術に興味を持つようになり、日本語の勉強を始め、そして、日本への留学を決めたが、その間中、いつも頭の中に朝焼けの富士山を思い浮かべていた。

去年の春、東京での新生活が始まった。日本語の勉強も面白かったし、美味しい料理と面白いお店が気に入って、楽しくてワクワクする毎日だった。だが、段々忙しくなり、時々大変なこともあった。そんな時は、一人で大学の三階の日本語教室へ行った。そこは晴れの日に富士山の遠景が見られるのだ。富士山が見られれば、気持ちが落ち着いていた。富士山は遠い所で、私の東京の経験を見てくれた。

帰国直前の七月、アメリカ人と日本人の友達を集めて、徹夜で富士山に登ることになった。登り初めはよかったが、すぐに寒さと疲れを感じ始めた。でも、一生に一度の経験だと思い、一步一步を踏み出した。懐中電灯の弱い光を頼りに、足を動かしていると、日本での様々なシーンが目に見え始めた。日本に来て大変だったこと、頑張ったこと、楽しかったことなどが、次々胸に浮かんできた。そして、子供の頃から憧れ続けた富士を、今、杖を使ってその土を触りながら、本当に登っているのだと思い、自分と日本の縁を考えた。

私たちは八時間かけて頂上に着き、日の出を待った。やがて太陽は世界を不思議な色に輝かせた。その時、私は思った。富士と呼ばれて日本に来たのだと。富士に導かれて、日本美術の勉強を始め、ここまで来たのだと。子供の頃の憧れから始まった日本への旅は、二十歳で、実際に富士山に触れたことで完成したのだ。私にとって、富士山ほど綺麗な山はない。

上級レベル 三位

私の好きな日本に見える他人への心遣い

カン ジーへ

初めて行った日本への旅を私は忘れない。わくわくして
もう飛行機の中から浮かれていた私を迎えたのは「ようこそ」と書かれた電光掲示板だった。その時は日本語が全然分からなかったので私にとって出来ることは周りを丁寧に
見ることだった。そして、私がその旅で知ったのは人々が
一緒に暮らすために何が大切かだった。

荷物を受け取った後で電車の乗り場に着き、私はふと立ち止まった。電車がまだ入る前だったが、人々は順番に綺麗に並んでいた。驚きはそれのみならず、電車の中にもあった。乗客は大抵静かに何か読んでいた。どのおじさんも新聞は折りたたんで読んでいた。日本人は人に迷惑をかけるないようにしている。みんなはつきりと口に出して言わなくても、他人を大切に心が見えた。そして、日本に滞在する時間が長くなればなるだけ「心遣い」がどれほど日常に浸透しているのかを悟った。例えば、バスや電車が発

車する時、いつも案内が流れる。バスは乗客全員が乗って席につくまで発車を待つ。交差点では交通ルールを守るなどだ。そんな一つ一つが集まって多くの人が気持ち良く暮らす日本の社会が出来ていた。

また日本人の心遣いを痛感したのは、5年前の東北震災の時だ。とても悲劇的で残酷だったので信じられなかったが、そんな大変な時でもニュースで見た人々はお互いを守るために結束し、他人に迷惑をかけないように、悲しみを押えつながら他の国では信じられないような秩序があった。被災者の人々は、むしろお年寄りには心配りをしながら長い列に静かに並んでいた。

日本では、人々が自分のことより他人と社会のために何かをしているのが印象的だった。世の中は進歩して便利になっっているが、結局は人間が共に住んでいる社会なので、一番大切なのは他人を思いやることだと私は信じて疑わない。相手を重んじながら心配りをし、礼儀を持って生きていけば、もつと暖かく希望に満ちた世の中になると思う。

在ボストン日本国総領事館主催

第七回日本語コンテストのお知らせ

日にち… 二〇一七年四月ごろ

場所… グレーターボストン地域

部門… エッセイコンテスト

スピーチコンテスト

対象… ニューイングランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等でご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先…

在ボストン日本国総領事館 大津賀

infocul@bz.mofa.go.jp